



©2005 石塚真一/小学館

第 276 号(令和4年(2022 年)9月7日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は長野県の山岳地域で発生した遭難事例をお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。(詳細は以下のとおり)

全国でコロナ急拡大！登山者のみなさまへのお願い

山小屋では、安心して登山ができるよう従業員の健康管理をはじめ定員削減や間仕切設置など様々な感染防止対策に取り組んでいます。

登山者のみなさまは、「山にコロナを持ち込まない、広めない」ことを意識して、登山前の1週間程度はリスクの高い行動を控え、自身の健康チェックをしっかり行うとともに、山小屋利用では事前予約やマスクなどの基本的な対策を徹底してください。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangaku/20220725yamagoya.html>

<https://yamahack.com/5399> (YAMAHACK 転載)

天気・防災情報 <https://www.jma-net.go.jp/nagano/>

信州 山のグレーディング <https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/gure-dexingu.html>
を確認し万全の準備で入山を！

長野県警山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

9月1週は、死亡遭難1件を含む、7件の遭難が発生しました。滑落や転倒による遭難が多く、大半が下山中に発生しています。

また、中高年登山者の疲労や病気による行動不能遭難も多発しています。

登山は、レベルに応じて年齢や性別を問わず、誰もが楽しめるスポーツですが、一般的なスポーツと比べてかなり負荷の高いスポーツです。

持病や故障を抱えたままの登山や、体力的に余裕のない登山は、それだけで遭難のリスクがあります。

また、若い頃の体力を基準にするのではなく、今現在の自分の体力を把握した上で、トレーニングを継続し、筋持久力、心肺機能、バランス感覚等を鍛え、健康管理にも十分に気をつけて万全なコンディションで入山しましょう。

今後、県内の山域では、紅葉が見頃になるシーズンを迎えます。それと同時に、朝晩の冷え込みも今まで以上に厳しくなります。日没前までには、余裕を持って登山口に下山できるような行動を心掛けてください。また、日帰りの予定でも、ヘッドライトや防寒着等の装備品を携行しましょう。

週末は、多くの登山者が集中することが予想されますので、混雑等を見越した上で余裕を持った計画で、無理のない登山をしましょう。

発生状況

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
8月29日	苗場山	73	男	滑落	負傷	2人パーティで苗場山に登山中、滑落、負傷
29日、2パーティで下水内郡栄村の苗場山に入山した男性(73歳)が、登山道から斜面を滑落して行動不能となる山岳遭難が発生し、岳北消防署員及び飯山警察署員が出動して救助しました。						
8月29日	八ヶ岳連峰 蓼科山	58	女	転倒	負傷	4人パーティで山頂から下山中、つまずいて転倒、負傷
29日、4人パーティで八ヶ岳連峰蓼科山に入山した女性(58歳)が、山頂から下山中に石につまずき、転倒して負傷する山岳遭難が発生し、茅野警察署山岳遭難救助隊員、諏訪広域消防本部特別救助隊員、佐久広域連合消防本部消防隊員が出動し、防災ヘリで救助しました。						
8月30日	北アルプス 針ノ木岳	75	女	転倒	負傷	4人パーティで針ノ木峠を下山中、バランスを崩し、転倒
30日、4人パーティで北アルプス針ノ木岳に入山した女性(75歳)が、下山中に転倒して行動不能となる山岳遭難が発生し、北アルプス広域消防本部消防隊員が出動して救助しました。						
8月30日	北アルプス 北穂高岳	62	女	滑落	死亡	単独で、北穂高岳に登山中、何らかの原因により、滑落
30日、単独で北アルプス北穂高岳に入山した女性(62歳)が、宿泊予定の山小屋に戻らず行方不明となる山岳遭難が発生し、松本警察署山岳遭難救助隊が捜索を行い、県警ヘリで救助しましたが死亡が確認されました。						
9月1日	北アルプス 蝶ヶ岳	83	女	疲労	無事救出	3人パーティで蝶ヶ岳から長塚山を下山中、疲労により行動不能
1日、3人パーティで北アルプス蝶ヶ岳に入山した女性(83歳)が、長塚山を下山中に疲労により行動不能となる山岳遭難が発生し、松本警察署山岳遭難救助隊員が出動し、救助しました。						
9月4日	八ヶ岳連峰 白駒池	43	男	転倒	負傷	単独で天狗岳から下山中、転倒、負傷
4日、単独で八ヶ岳連峰に入山した男性(43歳)が、白駒池付近の登山道で転倒して負傷する山岳遭難が発生し、消防隊員が出動して救助しました。						
9月4日	八ヶ岳連峰 大同心	63	男	その他	無事救出	2人パーティで大同心をクライミング中、技量不足により行動不能
		60	男	その他	無事救出	
9月3日から2人パーティで八ヶ岳連峰に入山した男性2名(63歳、60歳)が、横岳大同心の岩壁で行動不能となる山岳遭難が発生し、県警山岳遭難救助隊員、諏訪地区山岳遭難防止対策協会救助隊員が出動して救助しました。						

令和4年(2022年)中の山岳遭難発生状況(令和4年(2022年)1月1日～9月4日)

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)死傷者
令和4年(2022年)	195	22	2	94	99	217	118
内)単独登山	62	10	1	23	28	62	34
令和3年(2021年)	164	28	1	76	74	179	105
前年同期比	+31	-6	+1	+18	+25	+38	+13
内)単独登山	-4	-5	±0	+1	±0	-4	-4

■山域別発生状況(令和4年(2022年)1月1日～9月4日)

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北アルプス	槍穂高	27	13.8%	4	0	17	29
	後立山	38	19.5%	5	0	15	44
	その他	24	12.3%	3	1	10	25
	計	89	45.6%	12	1	42	98
中央アルプス	13	6.7%	2	0	5	6	13
南アルプス	5	2.6%	0	0	2	3	5
八ヶ岳連峰	41	21.0%	3	0	24	22	49
その他の山岳	47	24.1%	5	1	21	25	52
計	195		22	2	94	99	217

■態様別発生状況(令和4年(2022年)1月1日～9月4日)

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	51	26.2%	14	0	39	0	53
転倒	46	23.6%	0	0	46	0	46
病気	18	9.2%	4	0	0	14	18
道迷い	32	16.4%	0	0	0	41	41
落石	1	0.5%	0	0	2	0	2
雪崩	4	2.1%	2	0	2	0	4
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	21	10.8%	1	0	0	24	25
不明・他	22	11.3%	1	2	5	20	28
計	195		22	2	94	99	217

■男女別・年齢別比率(令和4年(2022年)1月1日～9月4日)

区分	男性					(人)	女性					(人)	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計	比率	死者	不明	負傷	無事	計	比率	人数	比率
19歳以下	0	0	2	5	7	33 23.1%	0	0	0	1	1	11 14. 9%	8	44 20.3%
20代	1	0	3	14	18		0	0	2	3	5		23	
30代	0	0	2	6	8		1	0	3	1	5		13	
40代	2	0	15	8	25	47 32.9%	0	0	8	5	13	36 48. 6%	38	83 38.2%
50代	2	0	11	9	22		2	0	11	10	23		45	
60代	6	0	12	19	37	63 44.1%	2	0	8	3	13	27 36. 5%	50	90 41.5%
70以上	4	1	12	9	26		2	1	5	6	14		40	
計	15	1	57	70	143		7	1	37	29	74		217	
比率	65.9%						34.1%							

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

* 本通信に関するご質問・ご意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝



目標額2,000万円
7.1～9.30実施中!

信州の山小屋 応援プロジェクト



—ふるさと納税で応援するクラウドファンディング—

夏山期間中の山岳遭難発生状況

長野県警 山岳安全対策課

夏山期間中(7月1日～8月31日)の山岳遭難発生状況

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)死傷者
本年	100	6	1	51	52	110	58
前年	88	12	1	43	35	91	56
前年比	+12	-6	±0	+8	+17	+19	+2

特徴

- (1)発生件数 コロナ禍以降、初めて行動制限のない夏山シーズンを迎え、北アルプスをはじめとする各山域で天候の良い週末を中心に多くの登山者で賑わい、山岳遭難も多発し、コロナ禍以降、発生件数、遭難者数ともに最多。
- (2)年齢別 40歳以上の中高齢の遭難が約8割(91人 82.8%)
- (3)態様別 転倒が3割強を占め増加(36件 36% 前年比+13件 +9.9P)
疲労や病気が3割(30件 30%)
- (4)山域別 北アルプス、八ヶ岳連峰等の高山での遭難が約9割(87件 87%)
- (5)居住地別 遭難者のほとんどが県外者(県内者8人 7.3%、県外者102人 92.7%)

山域別発生状況

【令和4年】				【令和3年】		
区分	件数	件数 比率	遭難者計	件数	件数 比率	遭難者計
北アルプス	槍穂高	23	23.0%	25	29	33.0%
	後立山	24	24.0%	27	9	10.2%
	その他	13	13.0%	13	17	19.3%
	計	60	60.0%	65	55	62.5%
中央アルプス	4	4.0%	4	7	8.0%	7
南アルプス	4	4.0%	4	4	4.5%	5
八ヶ岳連峰	19	19.0%	23	7	8.0%	7
その他の山岳	13	13.0%	14	15	17.0%	15
計	100		110	88		91

態様別発生状況

【令和4年】

区分	件数	件数比率	遭難者計
転・滑落	14	14.0%	15
転倒	36	36.0%	36
病気	15	15.0%	15
道迷い	10	10.0%	13
落石	1	1.0%	2
雪崩	0	0%	0
落雷	0	0%	0
疲労凍死傷	15	15.0%	17
不明・他	9	9.0%	12
計	100		110

【令和3年】

件数	件数比率	遭難者計
25	28.4%	26
23	26.1%	23
10	11.4%	10
8	9.1%	9
2	2.3%	2
0	0%	0
0	0%	0
13	14.8%	13
7	8.0%	8
88		91

年齢別発生状況

【令和4年】

区分	男女計	
	人数	比率
19歳以下	6	19人 17.3%
20代	10	
30代	3	
40代	19	40人 36.4%
50代	21	
60代	29	51人 46.4%
70以上	22	
計	110	

【令和3年】

男女計	
人数	比率
2	11人 12.1%
5	
4	
15	40人 44.0%
25	
20	40人 44.0%
20	
91	